

# Report 第118回品質管理シンポジウム

## 変化に対応する品質経営 ～ Just in Time + Just in Case ～ ～産・学からオンラインを含め、 500名を超える参加者が集結～



主担当組織委員 森雅彦氏 (DMG森精機株)

半世紀を超える歴史を誇る、日科技連主催「品質管理シンポジウム」(以下 QCS)の第118回は大磯プリンスホテルにて 2024年12月5日～7日の日程で開催された。「変化に対応する品質経営～ Just in Time + Just in Case ～」をテーマに開催された。参加者はオンラインを含め500名を超える盛況ぶりだったが、その模様を報告する。

### 1. 118QCSの趣旨

今回のテーマは、「変化への対応」が大テーマであったが、変化を以下の2つに分けて議論を行うことをポイントとした。

#### (1) 予測可能な変化、確実に来る未来への対応

例) 少子高齢化の影響による労働人口減少、地球温暖化を防ぐべくカーボンニュートラル、少品種大量生産から多品種少量生産へ

#### (2) 予測することが難しい変化への対応

例) 新型コロナウイルス、戦争等の影響によるサプライチェーンの崩壊、大国間の対立による輸出規制

(2)の「変化が読めない想定外の事態」も含めた変化とどう向き合い具体的なアクションを起こすにはどうすればよいかについて、8つの経営機能に分かれて、より踏み込んだ議論を行っていった。

### 2. 118QCSのプログラム

QCSは、①講演 ②グループ討論・発表 ③総合討論の3本柱で構成されている。

今回の講演者は次の通りであった。

表1 第118回 QCS 講演内容

講演
<b>【12/5 (木)】</b> <b>■特別講演</b> 「南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震の予測と防災―「大地変動の時代」を生き残る企業戦略」 京都大学名誉教授 鎌田 浩毅氏
<b>【12/6 (金)】</b> <b>■基調講演</b> 「変化に対応する品質経営～Machining Transformation～」 DMG森精機株 代表取締役社長 森 雅彦氏
<b>■講演1</b> 「サステナブルな顧客価値創造を目指して～すべては「想いとどく」ために～」 (株)ユーシン精機 代表取締役社長 小谷 高代氏
<b>■講演2</b> 「研究品質 ～変化する社会課題へのデンソーの挑戦～」 (株)デンソー 執行幹部 先端技術研究所長 伊藤 みほ氏
<b>■講演3</b> 「アートと社会 ～現代アート普及の意義～歴史的文化芸術都市、京都から」 アートプロデューサーMUZ(株) 代表取締役 カルドネル島井佐枝氏
<b>■講演4</b> 「品質管理を支えるダイバーシティ経営」 富士電子工業(株) 代表取締役社長渡邊 弘子氏



MUZ(株) 代表取締役 カルドネル島井佐枝氏

誌面制約から講演内容の紹介は割愛するが、南海トラフ巨大地震、アート、サステナブル、研究開発、ダイバーシティなど様々な切り口から示唆に富む講演が行われた。また、講演者6名のうち4名が女性経営者という点も印象的であった。



京都大学名誉教授 鎌田 浩毅氏

### 3. グループ討論, 総合討論



QCS講演会場風景

グループ討論は、「変化への対応」について8つの切り口からテーマが設置され、最終日には、8グループからの討論結果の発表後、参加者全体による総合討論が森雅彦氏の司会のもと行われた。

### 4. 参加者間の交流の場

QCSの醍醐味は、参加者である会員企業の経営幹部同士が胸襟を開いて、情報交流、人脈形成ができる点にある。コロナ渦では実施を見合わせざるを得なかった「談話室(別称:QCバー)」や「懇親パーティー」の実施形態がコロナ前の姿に戻ったことは、大変喜ばしい限りである。



夕食会風景

### 〔118QCSのまとめ〕

- ◆第一に、どんな変化があったとしても、人命と地域社会と会社を守る
- ◆今回、変化への対応策を様々な切り口で議論した例えば、
  - ・継続的な顧客との信頼関係を構築し、変化を捉える
  - ・変化に強いマネジメント、体制
  - ・多様な人材を活用するための仕組み
- ◆リスク管理に会社のリソースをかけることの必要性を再認識、全ては防げないが変化の影響を最小限にする/チャンスに変える

※森雅彦氏 「まとめ」から引用



談話室(QCバー)風景

### 5. 森主担当組織委員のまとめ

プログラムの最後では、主担当組織委員の森雅彦氏から「118QCSのまとめ」が説明された。経営環境の変化への対応をめぐる一連の議論を通し、森社長は「リスク管理に会社のリソースをかけることの必要性を再認識した」と指摘した。また「すべては防げないが、変化の影響を最小限にする。それをチャンスや次のビジネスの機会に変える」ことの必要性を議論できたとの認識を示し、品質管理シンポジウムを締めくくった。今回のまとめの内容は、QCS webサイトに掲載しているので、是非参照して欲しい。

\* \* \*

次回QCSは、慶応義塾大学 山田秀教授が主担当組織委員を務め、テーマ「経営環境の変化に適応するためのTQMの進化 ～基本の最先端な実践とさらなる飛躍～」として2025年6月5日(木)～7日(土)に開催される。経営環境の変化に応じてどのようにTQMを進化させるかを議論し、具体的な理念、指針、方法として落とし込むことを目指す。多くの会社役員、部門長ならびに学術関係者の参加を期待したい。

〔報告: 安随 正巳(品質経営創造センター)〕